

のぼりべつ

広報

人が輝き まちがときめく ふれあい交流都市 のぼりべつ

11月13日(土)、「第14回児童館スポーツ交流会」が総合体育館で開かれ、児童館などに通う市内の小学生が、綱引きやドッジボールでスポーツの秋を楽しみました。

交流会には、市内9カ所の児童館や今年の4月に開設された富岸町の放課後児童クラブなどに通う小学生・約180人が参加。

子どもたちは、各地区混合のチーム對抗戦を通して、学年や学校区の異なる友達との輪を広げていました。



特集
『市立図書館』
夢と文化の発信基地



紙のにおいと大量の書籍。

静けさの中、時折、ページをめくる音がする静寂と文化の館、図書館。

テレビやビデオ、家庭用ゲームなどのメディアが普及し、活字離れが叫ばれる昨今、書籍は私たちに必要の無いものになってしまったのでしょうか。

幼いころ、母親に読んでもらった絵本。試験のため、頭を抱えながら眺めた参考書。心躍らせながらページをめくった冒険小説。

私たちは、だれしも心に残る思い出の一冊をもっているものです。

みなさんは、近ごろ、心に残る一冊と出会いましたか。

図書館には、そんな思い出の一冊となる書籍の数々が、みなさんをお待ちしています。

特集

夢と文化の発信基地 『市立図書館』

約10万7千冊の書籍が みなさんをお待ちして います

中央町5丁目、「登別市青少年会館」横にある3階建ての建物「登別市立図書館」。

この白亜の建物は、昭和45年8月の市制施行を機に、市民の教養・調査研究、レクリエーション、文化振興などを目的として建設されたもので、昭和47年3月に完成しました。

平成11年3月31日現在、一般・学生向けや郷土資料、移動図書館用など、10万7千63冊の書籍を所蔵しているほか、新聞8紙、雑誌70誌、紙芝居250巻、日本法規103巻を供覧しています。

みなさんは、市立図書館で本を借りたことがありますか。
「本を借りるときの手続きが複雑そうだし、どんな新刊が入っているのか分からない。それに、本がいっぱいありすぎて、どこをどう探したらいいのかわからない。」
こんな不安をお持ちの方も多いのではないのでしょうか。



登別市立図書館

中央町5丁目21番地1
☎4324

▶開館時間 火～土曜日…10時～18時、日曜日…10時～15時
▶休館日 月曜日、毎月最終金曜日、祝日、年末年始

本を借りる際の手続きは簡単です。住所、氏名、生年月日、勤務先（児童の場合は学校名と保護者の氏名）、電話番号を一度だけ登録して、貸し出しカードを作れば、10冊まで2週間借りることが出来ます。平成10年度末の貸し出し登録者数は約7千人で、市民の約8分の1が登録し、図書館を活用しています。

また、図書館では年間約5千300冊の新刊を購入し、月ごとにそのリストを配布しているほか、「広報のほりべつ」でもそのいくつかを毎月紹介しています。

では、実際に図書館に行ったとき、膨大な書籍の数から自分の読みたい本を探すにはどうしたらいいのでしょうか。何万冊という膨大な図書の整理には約束事が必要で、全国の図書館は「日本十進分類法」という図書の分類法に従って整理されています。

総記（百科事典・新聞・雑誌など）、哲学、歴史、社会科学、自然科学、工学、技術、産業、芸術、語学、文学の10種類に分けられた書籍は、さらに10の要目に細かく分類され、利用しやすいようになっています。とはいっても、慣れないうちはなかなか目的の本を見つけないことが多いもの。

そんなとき、みなさんの要望におこたえするのが図書館職員。現在、市立図書館には8人の職員が従事し、訪れた人に本の楽しさを伝えていきます。中でも「司書」と呼ばれる職員は図書館のスペシャリスト。

「司書」とは、図書館法に規定される一定の資格を有し、図書の収集や整理、保管、閲覧などに関する業務を担当する職員のことです。市立図書館には4人の司書が配置されています。

となりまちの図書館から本を借りることが出来ます

私たちが暮らすこの地域は、登別市・室蘭市・伊達市と三つの市が隣り合っています。

登別市が約10万7千冊、室蘭市が約17万3千冊、伊達市が約8万7千冊。3市合わせるとその蔵書数は36万7千冊にもなります。しかし、市立図書館の蔵書の貸し出しは、基本的にそのまわりの市民や市内に通勤・通学している人を対象としているため、他市にいくら借りたい本があっても利用者が直接借りることはできません。

3市の図書を多くの人に活用してもらい、本を読む楽しさをもっともって知ってもらいたい。そんな思いから始まったのが3市図書館相互利用。

平成9年10月から実施されているこの相互利用は、登別・室蘭・伊達市に住んでいる人であれば、3市のいずれの図書館へ行っても本を借りることができるといえるのです。平成11年3月末現在で、登別市立図書館に149人、市立室蘭図書館に105人、伊達市立図書館に116人の市外登録者がいます。

このほか、全国の図書館の蔵書を地元の図書館を通して借り出し・返却ができる相互貸借利用も行っています。

また、登別市立図書館では、コンピュータに蔵書のデータ入力作業を行い、データベース化に取り組んでいま



登別市新図書館構想 21人委員会報告書 (抜粋)

※報告書は図書館をはじめ、市役所や各支所で配布しています。

登別市新図書館構想21人委員会報告書(抜粋)

○基本的事項

1 図書館の役割・位置付け(全9項目)

図書館の主人公は全市民であり、市民が図書館を慈しみて育ち、行政はそれを全力で支援することが理想である。そこに文化の薫り高いまちづくりの中心的役割を果たす図書館の姿がある。

すべての市民が生涯学習を楽しみ、青少年が将来に夢をはせる。絶えることなく向上する登別市のために、図書館は生涯学習の中核施設などの役割を担い、位置付けをもつ。

2 図書館の機能

- ① 中央図書館的機能
- ② 文化センター的機能
- ③ 情報センターとして
- ④ 地域センターとして
- ⑤ 児童・青少年へのサービス
- ⑥ お年寄りや障害のある人々へのサービス(バリアフリーへの取り組み)
- ⑦ 郷土資料・行政資料のサービス
- ⑧ 視聴覚資料やニューメディアのサービス
- ⑨ 学校図書館の活動を支えるサービス
- ⑩ 図書館ボランティアの学習と活動を支援するサービス

す。作業の完了は平成12年3月末を予定し、これにより蔵書の検索や管理などのスピードアップを図ることができ、将来の図書館コンピュータ化・ネットワーク化につなげることができると考えています。

北海道立図書館の蔵書を借りることはできないの？

北海道立図書館では、平成9年4月からパソコンを利用して市町村の図書館と道立図書館を結ぶネットワークづくりを進めています。

この「北海道立図書館情報システム・ネットワーク」は、道立図書館が所蔵する約60万冊の書籍をはじめ、毎週1千500点も出版される図書の新情報などを、システム加入市町村の図書館のパソコンで見ることができるといふもので、登別市立図書館は平成9年10月からこのシステムを利用していきます。

道立図書館から取り寄せることのできる本は、事典、書誌、年表、便覧などの参考図書と次号発行までの新しい定期刊行物を除くすべての本で、貸し出し中でなければ取り寄せることができます。



貸し出しは、市立図書館の貸し出し登録者であれば申し込むことができ、申し込んでから約1週間程度で希望の書籍が市立図書館に届きます。
平成11年3月31



移動図書館「こぐま号」をご利用ください

市は、より多くの人に図書館の蔵書を活用してもらうため、市内46ステーションを移動図書館「こぐま号」で巡回しています。

こぐま号では、車に搭載している図書のほか、本館の図書（要予約）も借りることができます。貸し出しの申し込みは1人10冊までで、返却日は回目の巡回日となります。

巡回日・巡回ステーションについては、年2回、『広報のほりべつ』でお知らせしていますが、図書館でも巡回日程表を配布していますのでご利用ください。

▶問い合わせ 市立図書館
(☎4324)

日現在、59市町村64図書館がこのシステムに加入し、平成10年度の年間利用冊数は約8万5千冊。登別市の年間利用冊数は1千897冊で、全道市町村の中では最も多く利用しています。

市立図書館には、

子どもたちが楽しく

読める本はないの？

幼いころからの読書経験は、その後の人格形成に大きな影響を及ぼすといわれています。

市立図書館には、子どもたちが本に親しみ、読書の習慣が身に付くよう配慮した「児童室」を開館当初から設置しています。平成11年3月末現在の児童書数は約3万冊で、図書館蔵書数の27・7％。児童室の対象年齢は乳幼児から中学生程度までで、年間、約5万5千冊の利用冊数があります。

児童室内には、子どもたちが作った折り紙や工作が飾られ、4畳半くらいのじゅうたん敷きの小上がりでは、親子でくつろぎながら絵本などを読むこ

▼児童室の小上がり



とができます。児童室の蔵書には、絵本をはじめ童話や民話、折り紙やあやとり、の絵本、テレビアニメの小説本などがあ

り、子どもたちが本に親しめるよう児童室職員を配置して運営にあたっているほか、本の貸し出し以外にも、切り絵や折り紙教室など、さまざまな行事が行われています。

市立図書館は、

文化と人の心のやさしさの

発信基地

市立図書館では、書籍の貸し出し・収集以外にも、ボランティア団体や個人ボランティアの協力を得ながら、毎月第2・第4土曜日に読み聞かせや各種工作教室などを行っています。

登別市新図書館構想21人委員会報告書(抜粋)

○図書館建設全体のイメージ
「図書館の市民における位置付けを確かなものにするために、立派な図書館を建設し、優れた運営を行ってほしい」など、全18項目。

○敷地について：建築環境とアクセス
1 利便地の場合（全3項目）：現在の図書館の隣接地やしんた21付近など。
2 郊外の場合（全2項目）：岡志別の森運動公園付近など。

○図書館システム
「個別・新生・登別・登別温泉町の図書館分館の整備充実が重要」など、全7項目。

○施設・設備
「時代の経過によって、色あせることのない独自のカラーをもった図書館建設を期待しています」など、全42項目。

○図書館サービス
「勤労者に対するサービスとして、平日の夜間開館を早期に実施してほしい」など、全13項目。

○図書館資料
「蔵書の充実をしてください（30万冊に増冊）」など、全6項目。

○高度情報化・マルチメディアへの対応
「インターネット、図書館運営システム、AVシステムはぜひ整備してください」など、全7項目。

○特色ある図書館
「市民の生涯学習・文化活動を実現することが可能な21世紀へ向けた、今までと違う図書館をつくってほしい」など、

「おはなしほけつ」とによる絵本の読み聞かせや手づくり紙芝居、「語り」の会・赤ずきん」による素話や切り絵の上映、「登別手話の会」による手話を学ぶ会など、主に子どもたちを対象とした催しが数多く開かれ、本を読む場所としてだけの図書館ではなく、文化の発信や生涯学習を推進する要としての活用を図っています。

図書館の活用、そして子どもたちの読書環境を守っていくためには、行政単独の事業ではなく、市民のみならずの協力があってこそ強力に推進できます。

本というメディアを通じて、さまざまなボランティア団体が子どもたちの心を育てる。図書館を訪れた人が、より快適に本を読めるようにと書架やいす、本棚、人形劇の人形作りなどに取り組み。現在、図書館で行われているボランティア活動の数々は、まちの得がたい財産であり貴重な文化です。私たちは、本から理想を知り、読書環境を守り育てる人たちから夢を学ぶのか

もしもありません。

21世紀に市民が望む

新図書館に向けて

昭和47年、十字型の外壁が東西南北を示すユニークな建築物として注目された図書館も築27年を迎え、建物の老朽化や閲覧室・駐車場のスペースなどが今後の課題となっています。

21世紀にまちの文化面をリードする図書館にはどんなことが求められるのでしょうか。

市は、平成8年度から平成17年度までの10年間に進めるまちづくり計画で記した「登別市総合計画・第1期基本計画」に、図書館資料・サービスの充実、図書館ネットワークの構築などを盛り込み、その中で中央図書館の新設などを検討することとしています。

平成10年7月には、新図書館建設の基本構想に市民のみなさんの声が反映されるようにと、一般公募・団体推薦の21人から構成される市民組織「登別市新図書館構想21人委員会」（丸山一

▼報告書を提出する丸山座長



16ページにわたる報告書としてまとめられました。

今年の9月30日、市教育委員会に提出されたこの報告書の前段には、「文化的なまちづくりの核となる図書館、生涯学習の中核施設、これからのまちづくりを背負ってゆく青少年の勉強やふれあいの場所としての図書館建設を望む」と図書館構想の基本が述べられ、結びには「市民の一人として図書館育成に力を出し合っていきたい」と委員会の意志が表されました。

来るべき21世紀に求められる図書館像。新たな図書館には図書館システムの核となる中央図書館としての役割や文化活動の核となる文化センター的な位置付けが求められています。

市は、提出された報告書を基本構想策定の資料とするとともに、今後も市民のみなさんのご意見を求めていきたいと考えています。

子どもたちの夢があふれ、市民の夢がつつばれている図書館。人々の思いやボランティア精神などの気高い理想、そして文化の発信基地となる図書館建設には、市民のみなさんの参加が必要不可欠です。

全5項目。

○高齢者・障害者にやさしい図書館

「バリアフリー」の施設で、トイレなども幼児から高齢者・障害者まで、だれでも利用できるようにする」など、全6項目。

○子ども・大人・みんなのために

「閲覧室は一般と児童を分けずに、ワンフロアで親が簡単に子どもに目が届くところに児童スペースを設けてください」など、全8項目。

○ボランティア活動への支援と育成

図書館ボランティアの活動の場の提供。

○図書館のPR

「図書館のPRについては、市の広報に折り込み広告を入れるなどして、市民に関心を持っていただくことが必要」など、全6項目。

○図書館職員に関すること

「図書館運営には専門性とプロとしての資質を持った図書館長、職員が必要です。登別市の図書館長、職員は全国規模で公募性で採用してほしい」など、全11項目。

○建設を成功させるために

「構想実現への取り組みには、市民参加が絶対必要です」など、全8項目。

○今後の展開に向けて

「新図書館建築後、市民参加の図書館会議を開催し、図書館の諸問題を市民とともに解決し、図書館を市民全員で育て続けていく必要があります」など、全2項目。



第2・第4土曜日は図書館へ出かけよう

毎月第2・第4土曜日、図書館を会場に開催される読み聞かせや人形劇に来てみませんか。入場は無料です。

開催時間については、図書館にお問い合わせください。

月日	内容
12月11日(土)	手づくり年賀状をつくる
12月18日(土)	人形劇
2月12日(土)	おひなさまをつくる
2月26日(土)	絵本の読み聞かせ
3月11日(土)	かるた会
3月25日(土)	絵本の読み聞かせ

▶問い合わせ 市立図書館 (☎4324)



▲11月3日に行われた登別市功労者表彰・登別市民表彰

おめでとうございます

平成11年の「秋の叙勲」で、福田庄太郎さん（76歳・登別温泉町132）が「勲六等瑞宝章」を受章されました。福田さんは昭和31年に消防団に入団し、平成3年から10年まで登別温泉分団長を務めるなど、42年間にわたって地域の防火・人命救助活動に尽力されました。



福田庄太郎さん

また、11月3日(木)には、永年にわたり、登別市の行政や社会福祉に貢献された方などの功績をたたえ、登別市功労者表彰・登別市民表彰が市民会館で行われました。功労者表彰は、高橋豊さん、井上輝雄さん、磯野直司さん、中嶋勝壽さん、木村三郎さん、福田庄太郎さんの6人が受賞されました。市民表彰は、自治貢献表彰に加藤金四郎さん、東峰高次さん、佐々木誠一さん、河村博さん、教育文化貢献表彰に八島年勝さん、篤志貢献表彰に野口観光株式会社、善行表彰に調理師養成所高和会がそれぞれ受賞されました。

テレビのマスコットも登場

10月23日(土)と24日(日)の2日間、日本工学院北海道専門学校で「第18回工学院祭」が開催されました。

今年の工学院祭は、学生だけではなく、子どもたちにも喜んでもらえる行事を企画。食べ物やゲームの模擬店が多数出店したほか、テレビのマスコットキャラクターも登場し、人気を集めていました。

また、23日(土)には、「一日体験入学」が行われ、全道から30人の高校生が参加しました。旭川市の青塚一樹君は「設備の整った素晴らしい学校ですね。できれば入学したいです」と希望を話してくれました。



▲子どもたちの人気を集めたテレビのマスコットキャラクター

できた！かわいいお人形

10月23日(土)、文化伝承館（郷土資料館横）で、トウモロコシの皮を使った人形作りが行われました。

この日は14人の親子が、同館のボランティアグループ「SLG」の指導のもと、人形作りに挑戦。乾燥させたトウモロコシの皮をコーヒーフィルターに張り付けてスカートにするなど、身近な材料を利用してかわいい人形を完成させました。青葉小学校6年の池田優美花さんは、「スカートを作るところが難しかったけれど、とても楽しかった。人形は自分の部屋に飾ります」と話してくれました。



ふるさとヘール

札幌圏に住み、登別にゆかりのある有志がふるさと登別を応援するため平成8年に結成した「札幌のほりべつ会」主催による「第6回札幌のほりべつ交流プラザ」が、10月29日(金)、登別温泉町で開催されました。

同プラザでは会員や市内の経済界の関係者など約70人が出席し、これからの登別のまちづくりや北海道の経済情勢などについて情報交換を行いました。

また、11月13日(土)には首都圏の登別応援団「東京登別げんきかい」主催による情報交換会などが東京で開催され、道内企業の支援やベンチャービジネスの可能性などについて活発な意見交換が行われました。

いたわり助け合って50年

10月31日(日)、登別観光協会が主催する『第4回エンマ堂金婚式』が行われました。この金婚式には全国から38組の応募があり、抽選で選ばれた10組のうち、この日は7組の夫婦が出席しました。

多くの見物客が見守る中、出席者を代表して室蘭市在住の岩倉信行さん・貞子さん夫妻が「これからもいたわり助け合い、うそ偽りのない夫婦生活を送ります」と閻魔大王の前で誓っていました。また、名古屋市から出席した鈴木義雄さん・定子さん夫妻は「健康で長生きできるように閻魔様にお願ひしました。今夜は温泉でゆっくりさせていただきます」と円熟の笑顔で話してくれました。



▲閻魔大王にうそ偽りのない夫婦生活を誓う岩倉さん夫妻



もう一度確かめよう火の始末



秋の全道火災予防運動にちなみ、10月27日(水)、登別温泉町のホテル登別万世閣前で、消防職員と登別温泉地区消防団員による合同消防訓練が行われました。

訓練では、深夜のホテル火災を想定し、放水訓練や逃げ遅れた負傷者の救出訓練が行われ、ホテル関係者や地域住民が見守る中、参加した41人の職員と団員は、真剣な表情で日ごろの訓練の成果を発揮していました。

訓練に参加した登別温泉分団長の坂井一朗さんは、「これからは家庭でも暖房器具を使う機会が多いので、火の元に十分気を付けてほしい」と話していました。

デンマーク語で読み語り

10月23日(土)、図書館で『アンデルセンの絵本の読み語り』が行われました。

この日の講師は、登別デンマーク協会の招きで登別を訪れていた、デンマークのリンゲコスト校教師、ニルス・アナセンさん。パソコンの画像を使い、日本語通訳を交えながらデンマーク語で童話『すずの兵隊』を披露しました。

参加した幌別小学校5年の後藤尚人君は「パソコンから映しだされる画像がとてもきれいでした。画像の中にもいろいろ仕掛けがあって楽しめました」と満足そうな表情で話してくれました。



第六回札幌のぼりべつ交流プ

市民リポーター

佐々木孝一さん

●ささき こういち
富岸町在住。68歳。

登別市出身。登別消費者協会や登別レクリエーション協会の役員を務める。平成9年、山形県で行われた第10回ねりんピックのウオークラリーに北海道代表として出場し、優勝。



▲10月10日体育の日に行われた「第44回市民剣道大会」。小学生から社会人まで男女合わせて142人の剣士が参加しました。

剣道の技と心を伝えたい

剣道を支えるボランティア

日本文化の一つ「剣道」。市内には三つの剣道少年団があり、これまで各少年団から多くの剣士たちが全国大会に出場するなど、輝かしい戦績を残してきました。

しかし、剣道はスポーツとしての競技力向上だけでなく、心身の鍛練と人間形成を目指しています。

ボランティアで豆剣士たちを熱心に指導している指導者の方たちをレポートしました。

剣道で身につけます 集中力や決断力

鷺別青少年会館を道場に行っている剣道少年団「登別錬真館」は、今年で創立30周年を迎えました。

「練習は午後4時半から。まず、時間を守るという社会の基本的なルールを身につけてもらいます」と安食孝さん。安食さんは登別で一番歴史のある同館の4代目館長。開館した翌年の昭和45年から指導を続け、これまでたくさんのお優秀な剣士を育ててきました。「剣道はいつたん試合に出場すると孤立無援。稽古を通じ集中力や決断力



安食 孝さん

が自然と身につけてきます。また、剣道は対戦相手がいってこそ競技ができません。相手を敬い、尊重する心が生まれ、これが礼につながると思っています。社会生活に必要なことではないでしょうか」と安食さんは剣道の理念の一つを披露してくれました。

勉強します！剣道します！ よい行いをします！

冷え切った夜の体育館。剣道の稽古はこの館でも、まず冷たい床に正座し指導者にあいさつ。稽古中は真冬でも素足です。

中央町の登別市青少年会館を道場として活動を続ける「登別錬真館」では、練習前に正座し指導者と子ども同士であいさつした後「勉強します、剣道します、よい行いをします」と館の三誓願を全員大声で唱和します。

「武道は正座と礼が大切」と話す大橋忠雄さんは登別錬真館の館長。自ら7段の腕前を持つ大橋さんは当年とって80歳。剣道を通じ子どもたちが立派な社会人に成長することを願い、昭和



市民リポートは、市民のみなさんが自由に発想・企画するページです。

いっしょに 剣道 しようよ!



市内の剣道少年団



登別練尚館

- ▶練習会場 登別青少年会館
- ▶練習日時 毎週水・金・土曜日の16時30分から18時30分まで
- ▶問い合わせ 安食さん (☎9459)



登別練真館

- ▶練習会場 登別市青少年会館
- ▶練習日時 毎週火・土曜日の18時から20時まで
- ▶問い合わせ 大橋さん (☎2329)



登別修道館

- ▶練習会場 富岸青少年会館
- ▶練習日時 毎週火・水・金曜日の18時から20時まで
- ▶問い合わせ 石岡さん (☎0504)



▲「がんばれー」。チームメートの応援にも熱が入ります。(市民剣道大会)

◀「しっかりね」。ひもを結ぶお母さんの手からはげましの気持ちが伝わります。(市民剣道大会)

体力や忍耐力を養おう

身を切るような冬の寒さ、防具が汗まみれになる暑い夏。どの館も一年を通して、素振りをはじめ基本稽古など



大橋忠雄さん

45年の開館から指導を続けています。子どもたちは卒団後も時折練習会場に顔を見せ、中には大人になって結婚式の招待状を持ってこられることも。「先生出席してくれませんか。剣道をしていて忘れずにいます。すね」とうれしそうに語っていました。

を繰り返して行きます。この厳しい稽古から体力と忍耐力が養われます。

富岸青少年会館を道場とする「登別修道館」は昭和57年開館の、市内では一番新しい剣道少年団です。開館当時はちょうど校内暴力や家庭内暴力が問題になっていた時期でしたが、地域の有志の方たちが青少年の健全育成を願って結成されました。

現館長の石岡美紀子さんは、父親が剣道場を持ち兄弟全員が剣道に打ち込む剣道一家に育ちました。

「今は剣道が好きで入門してくる子は少ないですね。体を丈夫にしたい、礼儀や忍耐力を身につけさせたいと親の希望で入門してくる子が多いです。最近の剣道はスポーツ化してきて実践向きになってきました。でも、小手先だけのうまさより、基礎がしっかりと身につくよう指導しています」と石岡



石岡美紀子さん

教えているのは 武道だけではありません

幼児期から自立心や忍耐力など社会人として必要な体験をすることなく育ってしまい、他人の迷惑を省みない自分勝手な子が増え、学校や社会でいろいろ問題が起きています。

それは日本人の心として伝統的に培われてきた礼節・信義・忍耐といったものが失われてきたからではないでしょうか。

宵の刻。本来なら仕事を終えてくつろいでいる時間に、剣道の指導者たちは職場から真つすぐ道場に駆けつけ、子どもたちと稽古に汗を流します。

剣道を支えるボランティア。この剣道の指導者たちが支えているのは武道の伝承だけでなく、私たちが忘れかけている大切な日本人の心なのかもしれません。

あなたも市民リポーターになって、市内の話題やまちの動きなどをリポートしてみませんか。平成12年度市民リポーターについてのお申し込み・お問い合わせは企画広報室(☎1122)まで。

元気

宅配便



今月のアドバイザー

おぐりまほり 小栗麻里 保健婦

今年も、風邪をひきやすい寒い季節がやってきました。すでに、風邪をひいた人も

いることと思いますが「風邪などたいたことはない」と軽く考えてはいませんか。

風邪は、普通感冒とインフルエンザに大別されます。

普通感冒にかかる鼻水、鼻づまり、のどの痛み、せき、たんなどの症状が多く見られますが、発熱はそれほどひどくありません。

一方、インフルエンザは、普通感冒の症状に加え、高熱（39℃～40℃）が出て頭痛、関節痛、筋肉痛、腰痛、全身がだるいなどの症状が強くあらわれ、体力や抵抗力の弱い乳幼児は、脳炎などを起こし、全国で年間100～200人程度亡くなっています。

また、お年寄りの場合は、肺炎を起こして死に至ることもあり、その数は年々増えつつあります。

寒い季節です。インフルエンザに気を付けて



普段から運動を心掛け、風邪に負けない体力づくりを

インフルエンザの感染は、インフルエンザウイルスにより空気感染するケースが多いので、集団感染しやすく、その年によっては、全国的に大流行する場合があります。

完全に風邪を予防するのはむずかしいですが、日ごろから、風邪に負けない体力づくりと健康管理を心掛けたいものです。

風邪を予防するポイントは、
①栄養と休養を十分にとる。
②室内を乾燥し過ぎないようにする。
③マスクを着用する。

④人ごみはできるだけ避ける。
⑤外出後は必ず手を洗い、うがいをする。

また、インフルエンザの予防接種を受けていると、感染しないか、感染しても軽い症状で済ませることが出来ます。

たかが風邪と考えず、万全な予防対策をして寒い冬を乗り切りましょう。

人が輝き まちがときめく

仲間たち Group

市制施行30周年・西暦2000年市民実行委員会



郷土『のぼりべつ』をみんなの夢が孵るまちにしたい。

「『のぼりべつ』を愛する者として、私たちにできることは何か。新世紀のまちづくりは、どのように進めていけばいいのか。一人でも多くの登別市民とこのまちについて一緒に考えていきたいですね」と話す市民実行委員会事務局長の根布伸博さん。

市民実行委員会では、北海道大学のスタッフを講師に招き、市内全域をキャンパスにして授業を行う『のぼりべつ市民大学』のほか、登別の素晴らしさを再発見しようとする事業、その良さを実際に体験してみようとする事業、自然や人とのふれあいを生み出せる事業を行おうと準備を進めています。

この市民実行委員会は、昨年10月に設立された『市制施行30周年・西暦2000年市民委員会』から発展したもので、市内で活躍する39団体が集まり、記念すべき年に新たなま

登別市も市民実行委員会に協力しています。



市民実行委員会の事務局は登別商工会議所にあります。市もその趣旨に賛同し、補助金の交付やキャッチフレーズ・ロゴマークの展開など、さまざまな形で協力しています。

また、市としてもこの記念すべき年にいろいろな事業を行おうと準備を進めています。

「キャッチフレーズにある『鬼のたまご』は、私たちの夢を込めたものです。だとすれば、市民の数だけたまごはあるはず。この機会に、スタッフとして参加したり、イベント会場に足を運んだり、一人ひとりが自分のたまごを孵して見てほしいと思います」と笑顔で話す根布さん。

市制施行30周年・西暦2000年市民実行委員会についてのお問い合わせ・参加は、登別商工会議所（☎4111）までどうぞ。

楽しかったこと、悲しかったこと、市への疑問や意見・要望などを企画広報室へ電話やはがき、封書、ファクス、電子メールでお寄せください。なお、個人や団体への中傷、営利を目的としたお話しはご遠慮ください。

企画広報室 中央町6-11
 ☎ 085 1122
 FAX 085 1108
 E-X: n-koho@earthcape.ne.jp

おばあちゃんの楽しみ

私の祖母は91歳になり、体のあちこちが不自由になってきていますが、自分のことはある程度できます。今年の8月から祖母はデイサービスを受けるため、特別養護老人ホーム緑風園のデイサービスセンターに通っています。

家族と施設の方をつなぐ連絡帳があつて、何をしたらか状況がわかるようになっており、祖母は入浴・ゲーム・食事を楽しみ、施設の方たちがとても親切だと喜んでいました。通い始める前は、どんな所で何をするのか不安に思い、少しためらっていたようですが、実際に通ってみるととても楽しいらしく、行った翌日から日めくりカレンダーを日に何度もめくり、週一度訪れるこの日を心待ちにしています。

生きがいができたという言い方は大げさかもしれませんが、生活の張り合いになっていくようです。

(登別東町 40歳 女性)

パソコン教室に参加して

「市民のためのパソコンの基礎教室」に参加した。パソコンの機能は

ふるさとの文化遺産



南部藩警衛番所跡



【所在地】
登別市鷺別町1丁目35番地3

江戸時代末期、幕府はロシアの南下に備え蝦夷地の警備を強化するため、安政2(1855)年に蝦夷地の大部分を幕府の直轄地とし、東北諸藩に警備を命じました。

函館から幌別までの海岸一帯は南部藩が警備にあたり、函館に本陣、室蘭に出張陣屋、幌別に警備番所が設けられました。

鷺別警衛番所は、沖を航行する外国船を監視するため、海を見渡せる鷺別岬に設けられ、外国船が近づく際にはのろしを上げて室蘭の出張陣屋と幌別の警備番所に異変を知らせました。

▶問い合わせ 社会教育課 (☎ 1129)

ここ数年ですいぶん進歩しており、表計算は瞬時にでき、きれいなグラフまで描けてしまう。キーボードから英単語を打ち込んで操作していた時代からみるとえらい違いだ。それだけに頭の切り替えが必要だが、これがうまくいかない。先生は、若い人にとっては常識的な質問や、繰り返される誤りにもいいねいに対応してくれた。学校の生徒に教えるのと違って、プライドもある社会人には苦労したと思うが、明るく和やかな雰囲気の中で学習が進められ、楽しかった。講習が終わるころには、参加者から名残惜しむ声が出ていた。(二市民)



あすなろ

すがわら あきら
菅原 亮さん(25歳)
 オートバックス登別室蘭インター店勤務
**厳寒期がやってきます
 愛車の冬支度はお早めに**

「これから寒さが厳しくなってきます。バッテリーやエンジンオイル、ワイパーなど愛車の冬支度はお気軽にご相談ください」と話す菅原さんは、この春エンジンオイルからタイヤとホイールの担当に変わり、初めての冬を迎えました。

「スタッドレスタイヤは3シーズンほどですり減り、ゴムが硬くなって制動力が落ちてしまいます。万が一事故が起きたときの車の修理代を考えると、早めの買い替えは安全料ですね」と勧めます。

趣味はスノーボード。休日には華麗にゲレンデを滑走する菅原さんは「年末年始は繁忙期、しばらくはお預けです」と仕事熱心な一面を見せてくれました。



登別の祭りをどきどきさせよ よつと、市民有志で旗揚げ

昨年3月、唐松さんをはじめ、祭り好きの仲間7人が地域の祭りに裸みこしを登場させたいと意気投合。自分たちも周りの人たちも楽しく、どきどきするような祭りにならうと、同年6月、20代から50代までの市民11人で「のほりべつどきどき村」を旗揚げしました。

その後は、7月に開かれる豊水まつりの「豊水裸みこし」に向けて担ぎ手集めに奔走。ポスターを製作したり、メンバーの口コミなどによって、祭り当日は約30人が集結。メンバー手作りのみこしを担ぎ、沿道から水を掛けられながら練り歩く姿に、祭りムードは一気に高まりました。

「みこしを担いでいる私たちが楽しむのはもちろん、それを見ている周りの人たちも一緒に楽しんでもらう。それが祭りを盛り上げ、まちおこしのきっかけにつながればと考えています」。

将来は、すべての干支を 勢ぞろいさせたい

「元旦裸みこし」

昨年の大みそか、今年の干支「うさぎ」の人形をみこしの屋根に飾った「元旦裸みこし」が、除夜の鐘を合図に刈田神社前を出発。厳寒の中、初もうでの参拝客らの声援を受けながら、さらしを巻いた担ぎ手が威勢のいい掛け声を響



かせ、担ぎ手以外のスタッフは見物客に甘酒を振る舞いました。

「元旦裸みこし」は今までにないことをやってみようと思ったのがきっかけ。みこしは見ているより、担ぐとその面白さがわかります。裸みこしを見物していた人に「来年は一緒に担ぎたい」と言われたときはうれしかったですね。今年の大みそかには、うさぎみこしと来年の干支である「辰みこし」の2基を練り出します。毎年1基ずつ増やして、将来はすべての干支みこしを勢ぞろいさせることが目標です」と語る唐松さん。

なお、のほりべつどきどき村では「元旦裸みこし」の担ぎ手とお手伝いを募集中。お申し込みは佐々木さん（セブンイレブン登別千歳店内 ☎2903）までどうぞ。



きらり

KIRARI

から まつ みつ お
唐松三男さん(柏木町)

毎年7月、中央町を会場に開かれる「のほりべつ豊水まつり」で、昨年に続き今年も登場した『豊水裸みこし』と、大みそかの夜、幌別市街をにぎやかに練り歩き、まちを景気付けた『元旦裸みこし』。

裸みこしを通してまちおこしに取り組んでいるグループ『のほりべつどきどき村』代表の唐松さんに話を聞きました。

裸みこしを通して『まちおこし』の一端を担いたい。

昭和32年5月、登別市生まれ。42歳。

今年9月から、『のほりべつどきどき村』の代表を務める。現在、室蘭市内のガソリンスタンドの所長として活躍中。



情報あらいがら

国民年金の集合徴収と年金相談を行います

市は、室蘭社会保険事務所と合同で、国民年金の納付相談と年金相談を行います。保険料の納付方法や免除手続きなど、年金についての相談をお受けします。

▼日時・場所

月日	時間	場所
12月15日(木)	10:00～17:00	市民会館
12月22日(木)	10:00～17:00	鷺別公民館

▼持参するもの

年金手帳、印鑑、保険料の納付書

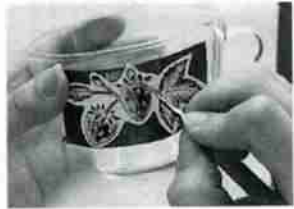
▼問い合わせ

保険年金課 (☎1771)

グラスリッツェン教室を開きます

ワイングラスにブドウや花模様を彫り、クリスマスにすてきなグラスで乾杯しませんか。

▼月日 12月22日(水)



▼時間

12時30分～15時30分

▼場所

アーニス1階ホール

▼講師

浜田春華さん(ジャマン彫刻家)

▼対象

市内に居住または通勤する方

▼募集人数

20人(申込順)

▼参加料

3千500円(材料費)

▼持ち物

おしぼり

▼申し込み・問い合わせ

12月20日(月)まで(土・日曜日を除く)に文化・スポーツ振興財団 (☎1116)

ご存じですか? こんな制度

◎児童手当

3歳未満の児童がいる保護者の申請に基づき支給する制度です。ただし、一定額以上の所得がある場合など、手当が支給されないことがあります。

▼支給額(児童1人につき月額)

区分	支給額
第1子	5千円
第2子	5千円
第3子以降	1万円

▼支給期間 3歳の誕生日の月の分まで

◎災害遺児手当

災害(交通事故、労働災害など)により、小中学校に在学する児童がいる父母または父母のいずれかが死亡もしくは重度の障害の状態となった場合、児童の保護者の申請に基づき、児童1人につき月額1万円を支給する制度です。

◎特別障害者手当

心身に政令で定める程度の障害をもつ20歳以上の方に、月額2万6千800円の手当を支給する制度です。ただし、一定額以上の所得がある方や3カ月以上継続して入院している方、特別養護老人ホームなどの施設に入所している方などには手当が支給されません。詳しくはお問い合わせください。

▼問い合わせ

児童家庭課 (☎5634)

第38回 北海道障害者スポーツ大会 「スローガン」シンボルマークを募集します

第38回北海道障害者スポーツ大会が、来年7月2日(日)、西胆振8市町村を会場に開催されます。この大会

をみなさんに広く知っていただくため、大会のスローガンとシンボルマークを募集します。

なお、作品は未発表のもので、西胆振の特色を生かしたものとします。

▼応募方法

◎スローガンは20字以内で、封書またははがきで応募してください。

◎シンボルマークはB5版サイズで着色し、簡単な説明を添えてください。

◎住所・氏名・年齢・職業・学校(学年)・電話番号を明記してください。

◎1人何点でも応募できます。

◎作品の著作権は大会実行委員会に帰属します。なお、作品は返却しません。

▼締め切り 1月13日(木)(当日消印有効)

▼発表・表彰 2月下旬・優秀作品各1点、入選作品各2点

▼応募先・問い合わせ 第38回北海道障害者スポーツ大会事務局(〒060-0083室蘭市東町2丁目1-6室蘭市障害者福祉総合センター内 ☎9311)

郷土資料館体験学習

正月用 しめ飾りづくり



- ▶日時 12月11日(日) 10時～12時
- ▶場所 文化伝承館(郷土資料館横)
- ▶定員 30人(申込順)
- ▶参加料 小中学生 無料
大人 190円

申し込み・問い合わせ
12月7日(水)の10時から
郷土資料館(☎1339)

入選作品

平和な街で みんなニッコリ 明るい未来

登別中学校3年 水谷亮司

講演会「もめる親族・きょうだい、よじれる夫婦 家族介護からの離陸」

家族介護の問題、高齢者介護の今後のあり方について、一緒に考えてみませんか。

▼日時 12月12日(日) 13時30分～15時30分(開場13時)

▼場所 蓮峰殿(室蘭市宮の森町1丁目1-64)

▼講師 沖藤典子さん(作家、高齢社会をよくする女性の会理事)

▼参加料 一般500円、学生300円

▼主催 室蘭高齢社会をよくする女性ネット

▼問い合わせ 今井さん (☎07548)

押し花の無料体験講習会

くふしぎな花倶楽部バンジーの会

▼月日 12月6日(月)・13日(月)

▼時間 9時～17時(申し込み不要。都合のよい時間にご参加ください)

▼場所 若草つどいセンター

▼持ち物 ティッシュ、はさみ、ピンセット(持っている方のみ)

▼問い合わせ 宮森さん (☎8954)

マイプラン講座

「ハーブ料理でクリスマス」

「ハーブサークル」

▼日時・場所 12月16日(木) 10時～12時30分・市民会館

▼募集人数 20人(申込順)

▼参加料 1千円(材料費)

▼持ち物 エプロン、ティークップ、筆記用具

▼申し込み・問い合わせ 12月6日

(月)から磯野さん(☎1073) または清水さん(☎1840)

ご存じですか?

交通事故の援護制度

交通事故の被害を受けた世帯のみなどに援護制度がありますので、ご利用ください。

◎交通遺児等育成資金の貸し付け

▼対象 0歳から中学校卒業まで

▼貸付金額 1人につき一時金15万5千円、以後月額2万円、小中学校入学時に入学金4万4千円

▼貸付期間・利子 貸付決定時から中学校を卒業するまで・無利子

▼返還方法 貸付期間終了後6カ月または1年を経過した後、20年以内の均等分割返還

◎重度後遺障害者に介護料支給

▼対象 自動車事故により、頭部または脊髄に損傷を受け、常に介護を必要とし、一定の要件に該当する方

▼支給額 1日につき4千500円(自宅で近親者などの介護を受けている方は2千250円)

▼支給期間 毎年3・6・9・12月の4回に分け、3カ月分をまとめて支給

▼問い合わせ 自動車事故対策センター札幌主管支所 (☎011-561-2145)

市民プール

ご利用は12月16日(金)まで

休館のお知らせ

市民プール(千歳町3丁目)は、12月20日(月)から休館します。来年は4月1日に開館します。

問い合わせ
文化・スポーツ
振興財団
(☎1116)

コンピュータ西暦2000年問題への対策は?

コンピュータ西暦2000年問題ってなに?

西暦1900年と2000年。

私たち人間は、どちらが新しい年なのか容易に区別することができませんが、「コンピュータ西暦2000年問題」とは、西暦を下2けたで管理しているコンピュータが、1900年と2000年の下2けた「00年」を区別することができず誤作動を起こし、さまざまな問題が発生する可能性がありますといわれているのです。

インをはじめ、公共交通機関、電話医療、金融など、生活に欠くことのできない社会的基盤については、市や各事業者が早くから対応を進めており、2000年問題が原因で一般生活に重大な支障をきたす可能性は低いと考えられます。

市は、消防や水道業務のほか、住民登録や印鑑登録、税計算などに使用しているコンピュータについても、2000年問題の影響調査や日付を2000年にセットした模擬テストを実施し、正常に動作することを確認しているほか、不測の事態に備えて各関連機関との調整を進めています。

しかし、2000年問題によるトラブルが発生する可能性が低いとはいえ、自然災害などによる災害はいつ起きるか分かりません。3日分程度の食料や飲料水、救急箱、懐中電灯、ラジオなど、災害に対する備えを日ごろから行うことが大切です。

市民生活への影響は?

水道や電気、ガスなどのライフライン

▼2000年問題に関する問い合わせ 行政管理課(☎5109)

「ゴミのクリンクル帳」の点字版を作製しました

登別市点訳赤十字奉仕団は、市が「広報のほりべつ10月1日号」とともに配布したパンフレット「ゴミのクリンクル帳」を、視力に障害をもつ方も読めるよう点字で表した「点字版」を作製しました。ご希望の方に「点字版」のパンフレットを差し上げますので、ご連絡ください。



▼問い合わせ 伊達さん

(☎2159)

平成11年度自衛官募集

▼募集種目 自衛隊生徒(4年間の)

「道央圏の地域整備の展開構想案」にご意見を!

石狩、空知、後志、胆振、日高管内の81市町村の市町村長、経済団体などで構成する「道央圏地域整備展開構想検討協議会」は、道央地域81市町村の発展方向を示した「北に芽ばえる7つの夢」と題する「道央圏の地域整備の展開構想案」を策定しました。

同構想案については、市役所1階総合案内と企画広報室(同2階)に「北に芽ばえる7つの夢」と題したパンフレットと、「道央圏の地域整備の展開構想(案)」を備えていますので、詳しい内容をご覧ください。

なお、同構想案に対するご意見やご感想をお待ちしていますので、パンフレットに同封のはがきでお寄せください。また、同構想案はインターネットでもご覧になれます。

▶応募方法 はがきに住所、氏名、年齢、職業、電話番号を記入の上、12月28日(必着)までに郵送してください

▶応募先・問い合わせ 〒060-0005札幌市中央区北5条西6丁目札幌センタービル13階はまなす財団「北に芽ばえる7つの夢(道央圏の地域整備の展開構想案)アンケート係」(☎011-205-5011)

▶ホームページアドレス
http://www.hamanasu.or.jp/002/

生徒課程で、陸・海・空曹を養成する)

▼応募資格 中学卒業見込みの男女または平成12年4月1日現在で17歳未満の男子

▼受付期限 1月4日(火)まで

▼第1次試験日・場所 1月5日(水) 陸上自衛隊札幌駐屯地体育館

▼問い合わせ 空團募集事務所

(☎9533)

アルペンスキージュニアレリーシングチーム会員募集

登別スキー連盟ジュニア強化部は、1月2日(日)から3月下旬まで、小学生のアルペンスキーチームの指導を行います。スキーに興味のある小学生を募集します。

▼申し込み・問い合わせ 12月10日

(金)までに佐々木さん

(☎3038)

スキー教室参加者募集

〜登別スキー連盟〜

コース	講習日	対象	募集人数	受講料
正月3日間教室	1月2日(日)~4日(火)	小学生以上	40人	小中学生 6,000円 大人 8,000円
土曜pmコース	1月15日(日)から2月26日(日)までの毎週土曜日	小学生以上	15人	10,000円
カービングスキー教室	1月29日(土)・30日(日) 2月26日(日)・27日(月)	中学生以上で級別検定1~2級を目指す方	10人	5,000円
中高年スキー教室	1月16日(日)から2月13日(日)までの毎週日曜日	40歳以上	15人	10,000円

日本工学院北海道専門学校 平成12年度学生募集

学校教育法の一部改正に伴い、専門学校生も大学への編入学が可能となり、卒業後の進路の選択肢が幅広くなりました。

今年度、日本工学院北海道専門学校では、6人の学生が編入学試験に合格し、室蘭工業大学に4人、北見工業大学と福井工業大学にそれぞれ1人が、来年4月から各大学の3年次に編入学します。

募集学科	定員
情報処理科	160人
情報ビジネス科	40人
マルチメディア科	40人
機械制御工学科	40人
電子工学科	80人
電気工学科	80人
建築学科	80人
土木工学科	80人

- ▶修業年限 2年
- ▶選考料 2万円
- ▶学費(全学科共通)
◎1年次……130万2,460円
◎2年次……94万8,000円
※このほかに、教科書代、教材費として4~6万円が必要です。
- ▶受付期限 平成12年3月31日(金)まで

資料請求
問い合わせ

〒059-8601 札幌市東区北18条4丁目
日本工学院北海道専門学校
入学広報室(☎0888)

▼申し込み・問い合わせ

小森さん(☎0394)

スノーボードジュニア講習会を開きます

▼日時・場所 12月27日(月)~30日(木) 10時~12時・国設カールス温泉サウナバススキー場

▼対象・定員 サンライバスキー場の第3リフトから、転びながらも滑り降りることが出来る小学1年生から中学3年生までのスノーボード経験者・20人(申込順)

▼受講料 無料

▼説明会日時・場所 12月14日(火) 18時30分~20時・登別大谷高校会議室

▼申し込み・問い合わせ 12月7日(火)から宮武さん(登別大谷高校内)

☎2970または自宅☎2205

平成12年2月18日(金)
開場18時、開演18時30分
市民会館大ホール

- ▶入場料(全席自由) 一般1,500円、高校生以下1,000円
- ※小学校入学前で座席を使用しないお子さんは無料です。
- ▶チケット取扱先(12月20日(月)から) 市民会館、総合体育館、鷺別公民館、市役所内母子会売店、アーニス、紀文堂書店(JR登別駅前)、ブックアベニューいりえ(若草町)、ミュージックショップ国原長崎屋中央店・中島店、エルム多米楽器室蘭店

阿部博光 クラシックコンサート

ピアノとフルートの



心潤す妙なる調べ

好き
このまちが

まちの風景
2月

日本フィルハーモニー交響楽団で首席フルート奏者を務め、退団後、札幌交響楽団などのソリストとして幅広く活躍している阿部博光さんと、スイスのバーゼル音楽院でチェンバロとピアノ伴奏を学び、オーケストラの鍵盤奏者・合唱伴奏者として高い評価を受けている阿部佳子さんによるコンサートが開かれます。

夫婦ならではの息の合った演奏を、ぜひお聞きください。

▼演奏曲目 ピゼーノ「アルルの女」
よりメヌエット、モーツァルト／ソナタ ヘ長調K.376、シャミナード／コンチエルトイノほか

※当日は駐車場の混雑が予想されますので、ご了承ください。

※小学校入学前のお子さんをお連れの方は母子席をご利用ください。

▼問い合わせ 文化・スポーツ振興財団(☎011-116)

となりまちホットライン

白老町

室蘭市

伊達市

悠久の伝説に思いをはせる
～「アイヌ民族博物館」のご案内～

初日の出を見に来ませんか

北海道二期会公演
歌劇「カルメン」にどうぞお越しを

アイヌ民族博物館は、アイヌの人々の伝統文化を豊富な資料と映像で紹介している北海道を代表する教育文化施設です。国指定の重要無形文化財「アイヌ古式舞踊」などが常時公開されていますので、ご家族おそろいでぜひご見学ください。

地球岬やイタンキ浜などの景勝地で、初日の出を見てください。地元の町会が甘酒やホットミルクの無料提供を行います。ご家族やカップルで、ぜひ新年の陽光を参拝に来てください。

ピゼー作曲によるフランスオペラの代表作、歌劇「カルメン」が伊達にやってきます。この機会にぜひご鑑賞ください。

- ▶入場見学時間
- ◎4月1日～10月31日 8:00～17:00
- ◎11月1日～3月31日 8:30～16:30
- ▶入館料 大人683円、高校生525円、中学生420円、小学生315円
- ▶問い合わせ (財)アイヌ民族博物館 (☎0144-3914)

- ▶日の出時刻 7:05ころ
- ▶見どころ 地球岬、イタンキ浜、マスイチ浜
- ※地球岬では交通規制を行います。また、駐車場に限りがあるため、乗用車の利用はなるべく控えてください。
- ▶問い合わせ 室蘭市観光振興課 (☎3176)

- ▶日時 1月23日(日) 開演14:00
- ▶場所 だて歴史の社カルチャーセンター大ホール
- ▶入場料(全席指定) 前売り2,000円、当日2,500円
- ▶チケット取扱先 エルム多米楽器室蘭店、ミュージックショップ国原中央店・中島店、ギンヤレコード(室蘭市)ほか
- ▶問い合わせ 伊達メセナ協会 (☎0142-1515)